

医療対策

診療実態をどうとらえるか

平日昼間の診療確保が重要



やまさき まさお 議員
山崎 正男

者の増加を見る限り、町民からも一定の評価をいただいている。

平日昼間の診療を確実に確保することが最も重要なことである。

問 診療の実態と現状をどのようにとらえているか。

町民のために24時間体制はできないか。

住民の心配や困っている情報をどのように集約し、どう生かしていくか。

救急車の取り扱いと利用の仕方についても伺う。

答 矢野 地域住民課長

佐賀診療所は先生4人の体制（土曜は2人体制）と看護師5名で対応している。患者数は8月には1005人で患

者の増加を見る限り、町民からも一定の評価をいただいている。

平日昼間の診療を確実に確保することが最も重要なことである。

今後、訪問看護ステーションの実現によって、24時間看護師が中心となって医師の指示を受けながら対応していく。

意見箱を設置しており、住民の皆さまにとって利用しやすい診療所を目指して取り組んでいく。

緊急時に救急車を利用することは当然のことで、黒潮消防署に気軽に相談をしてほしい。

佐賀診療所や役場等に救急用の車配備は困難だと考える。

缶詰事業

町費の
持出し実績は

総額で
5400万円

問 缶詰事業への町の持ち出しはどれくらいか。財源内訳も含め、当初から年度ごとの実績を問う。

工場の将来計画や対応は、町長の責任の判断や、引き時は。

答 門田 産業推進室長

平成25年度の事業費は、約1億480万円、平成26年度は約5640万円、平成27年度は約3440万円、今年度は2440万円を計画。累計事業費が約2億2千万円で、うち町費は約5400万円。

答 大西 町長

営業外収益を除いた損益分岐をクリアすることが最優先で、将来を展望し、町内他社商品を売り込むために積極的に営業を行い、新店舗の開拓



佐賀診療所・訪問看護ステーションで対応
住民の願いは信頼の構築

を進めていきたい。

当施設の製造能力は、通常限界。ストックが積み上がるまで、とどんどん売っていかないと、というのが最大の課題で、一日1440缶を作ったうちの1400缶程度がマーケットに出回る商品ということだ。

現場に常駐する社長が必要であることは自覚をしている。後任の登用については、現在の社員の育成ならびに外部人材の登用等、さまざまな選択肢を検討しなければならないと考える。

【その他の質問】

※環境整備について